

Park(ing)Day竹原 2021 実施概要



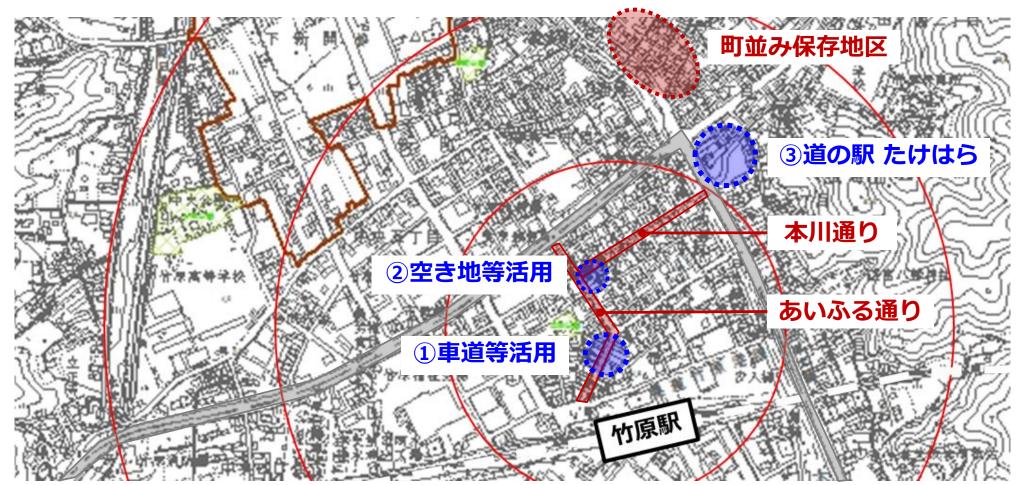
▶日時:2021年10月8日(金)~10日(日)11:00~20:00※10日(日)は16:00まで

▶場所:竹原市駅前あいふる通り、旧憩う家跡地 ▶主催:竹原市

▶目的: 竹原駅前あいふる通りにおいて道路空間活用の一例となるPark(ing)Dayを開催することで、地域

住民が集まり、居心地の良い空間を過ごすことにより、公共空間の新たな魅力を感じてもらう。

各拠点(①~③)が連携し、ストリート全体へ波及効果が発揮されることを目的とする。

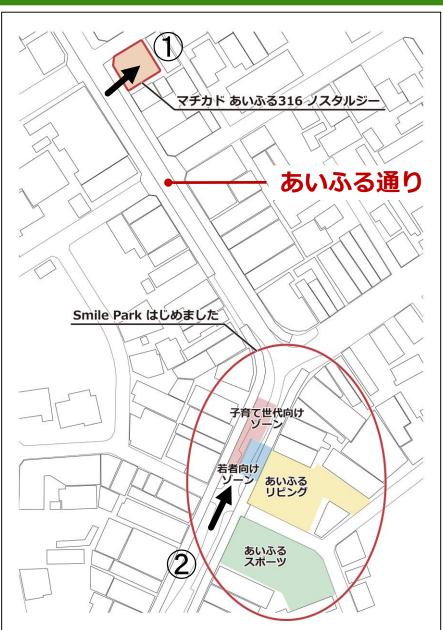


Park(ing)Day竹原 2021 実施概要









UR

什器リース



道路管理者 交通管理者

許認可

山口大学 (宋アドバイザー)



助言・調査協力等

社会実験の実施主体(竹原市)

構成メンバー

竹原市・沿道店舗事業者・NTT-ファシリティーズ 復建調査設計(株)・山口大学学生・まちづくり会社等

(構想・企画・準備・調査)

積極的協力

地元自治会

応援・資金支援

商店街組合

スケジュール



▼ 人集め • 商店街、関連事業者、地域住民など企画参加者の声掛け

● 運営支援のコンサル選定(規模が小さければ不要)

4力月前

概要検討

• 開催日、開催日数、開催時間帯の設定(特に、夜間実施するかどうか)

● 実施場所の選定及び実施方法の検討(歩行者天国、歩道・停車帯等)

3カ月前

企画検討

• 集中企画研修(2日間)により企画コンセプト、什器配置などの企画骨子を検討

WEB会議等で、必要什器の選定・購入担当者・金額等を協議し調整

※対外的な説明に使用できる企画書を作成

1~2力月前

関係機関

• 庁内、地元商店街、地元自治会等へ企画内容を説明し、協力を要請

• 交通管理者などへ交通規制や来訪者用駐車場などについて協議

0.5~1力月前

● 当日参加できる人員等を踏まえた、調査内容の検討

調查方法

● 歩行者通行量、立寄率調査、滞留時間、来訪者アンケートの準備

0.5~1力月前

スケジュール



広報

● 概ね1週間前にプレスリリース、広報、SNS等で情報発信

● 想定されるターゲットは特に念入りに! (子ども園、小学校、子育て支援施設)

1週間前

準備

• 準備の負担が大きいので、**前日から準備作業を実施**

● 調査の準備物、印刷物の確認、必要に応じて現地へカラーコーン等の設置

前日

● 各ゾーンでの監視作業、消毒作業、アクティビティ調査の実施

当日

• 参加者もしっかりと場の雰囲気を楽しむ

当日

ヒアリング

• 社会実験実施後に、沿道店舗にアンケートとヒアリングを実施

◆特に、営業上支障が生じたか、店舗の売り上げに影響が出たかなどは重要

後)1週間以内

● 参加者による振り返り、良かった点・改善点・想定外の効果など

報告会

● 調査結果のとりまとめが終わったのち、商店街理事会等への報告会

後)1週間~1カ月

2 Day集中企画研修



■日時

令和3年8月4日(水)16:00~20:00、8月5日(木)13:00~17:00

■目的

- ☞企画の全体コンセプト、具体的な滞留空間の検討
- ☞ それぞれの立場の人が、独自のノウハウを企画に盛り込んでいき、参加者のスキル向上 と関係者の交流

■対象エリア

①歩行者天国エリア(1班)、②旧憩う屋エリア(2班)、③他周辺エリア(3班)

■参加者

勉強会メンバー7名、NTTファシリティーズ3名、復建調査設計㈱3名、 山口大学学生4名 竹原市2名、宋アドバイザー 合計20名が参加







構想のポイント



■日常を意識

年に一度しかできないような企画ではなく、少し頑張れば<u>月に一度</u> 程度はできるような企画を意識することが重要。

少し規模は小さくても、**地元住民の努力だけで実施する企画**が必要

☞日常的なまちの風景をどのように変えていくのかを意識

■沿道商店への経済的な効果

Park(ing)Dayを通じて、ウォーカブルなまちづくりを継続的に行うためには、**沿道商店街への経済的な波及効果**は必須である。

人が集まり、**滞留するための取組**を通じて、沿道商店街での飲食や買い物につなげることが重要! (外から来た人が儲けることはNG)

☞多くの人を集めることよりも滞留時間を意識した社会実験が重要



■短期的なアクション(Park(ing)Dayの取組)

- ☞車道や停車帯等の道路空間を活用した居心地のいい滞留空間の創出
- ☞民間の空き地や駐車場等の低未利用地を活用した<u>多世代の滞留・交流拠点</u>の創出
- ☞新たな移動手段により、歩行者と親和性の高い**移動しやすい交通環境**の構築

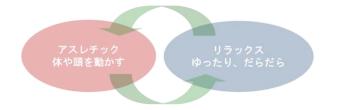


「Smile Park はじめました」

あいふる通りの一部を歩行者天国にし、 誰でも憩えるパークに作り替える

> 子どもから大人までを笑顔にするため、 気軽に集い、憩うための様々な場所をつくる

『駅前通りをパークに作り替える』



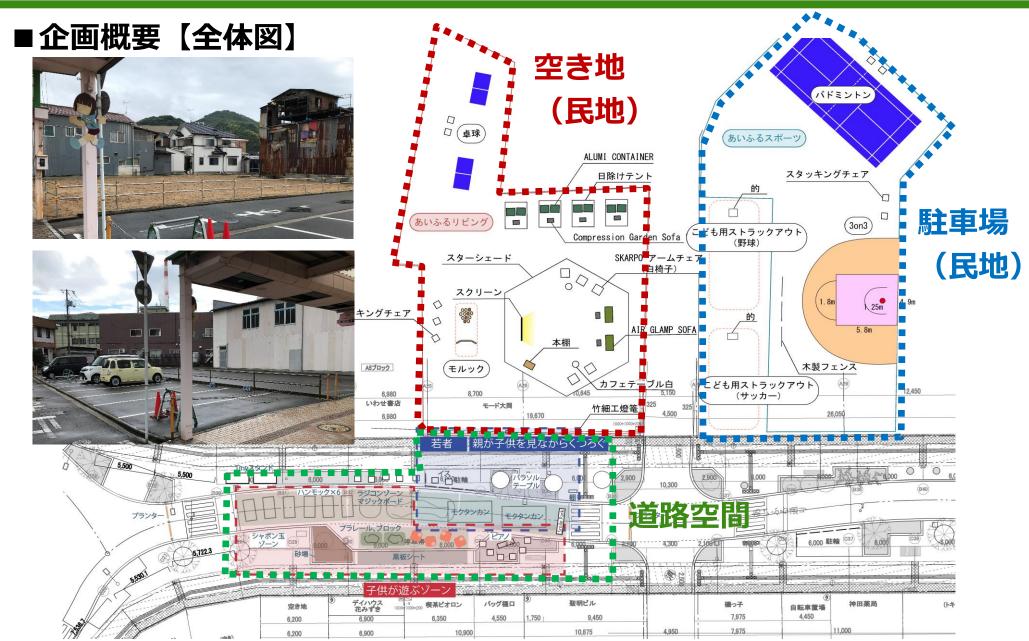
「マチカド ノスタルジー」

ノスタルジーな雰囲気が交差する角地に 新たな滞留と交流を生む空間をつくる

マチカド ******** ノスタルジー

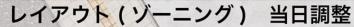
昭和の雰囲気のある「本川通り」と平成の駅前 買物公園「あいふる316」の交わる角地。 このマチカドを訪れた人々が、居心地の良いノ スタルジーに触れることで新たな滞留と交流を 生むそんな空間づくりを目指す。





「マチカド ノスタルジー」





(i)屋台ゾーン

集客を図り賑わうような、屋台を 中心に設けることでひと目を引き、 人が回遊する空間とする。

(ii)ゆったりアートゾーン アートを行うような体験空間とテ イクアウトを食べる等、ゆったり 滞留できる空間や屋台を設けるこ とで居心地の良い空間を作る。 そのため、(i)からの人目を遮る ために背の高い竹灯り等を設置し て景観の良い壁を設ける。

間の通路は、ゾーンとは完全に区 分しない。自然に人が

> 「近道しよう」 「ちょっと見てみよう」

と思うような感覚で入ってきてもらえるような空間としている。



新たな移動手段 グリーンスローモビリティ



■ルート図



広報



■広報方法

☞チラシ(周辺地域住民, <u>小学校</u>, 子ども園等)

☞インターネット、SNS

ママスコミ

など

■周知内容

- ☞ Park(ing)Dayの目的
- ☞ 開催期間、時間、場所
- ☞ コンテンツ
- ☞ 問い合わせ先、方法
- ☞ グリスロルート

■広報場所

- ☞ 道の駅、海の駅、市役所、商店街各店舗
- ☞ 開催中の現地 など

































「Smile Park はじめました」(あいふるリビング)









「Smile Park はじめました」(あいふるスポーツ)









「マチカド ノスタルジー」











グリーンスローモビリティ











アクティビティ調査 →調査結果は別紙を参照



(1) パーキングデーゾーンへの参加者数を明らかにし、社会実験の効果を提示する。

➡歩行者通行量・立寄者数調査

(2) 滞留時間の増加に良い影響を与える空間・コンテンツ要素を明らかにする。

➡滞留時間調査

(3) どのような空間要素・場所・機能 に満足しいるかを明らかにする。

➡PDアンケート調査

(4)グリーンスローモビリティ利用者の 利用実態やニーズを明らかにする。

→GSアンケート調査

(5) 周辺商店街の物販・飲食店に今回 の社会実験の満足度を明らかにする。

→アンケート・ヒアリング調査



実践者の声



「Smile Park はじめました」

- ☞子ども達やその親たちには笑顔があふれて風景がまさ に Smile Park だった。
- ☞ 夜は落ち着いた雰囲気で、**滞留する年齢層**が上がった。
- ☞沿道喫茶店が<u>テイクアウトコーヒー</u>を提供していただけたことが大きな一歩と感じた。
- ☞スターシェードが良いランドマークとなっていた。
- ☞場の連続性、ウェルカム感、 **おる取組**が不十分であった。
- ☞日よけ、自動販売機の設置、ドリンク販売等の**暑さ対 策が必要**

「マチカド ノスタルジー」

- ☞ 旧憩う屋跡地は、あいふる通りと本川通りの結節点として、重要な立地であると再認識した。
- ☞壁面アート、動画放映などのコンテンツにより幅広い
 年代の人に参加していただいた。
- ☞ 参加型アート
 等を行うのは、手軽な非日常的体験として良かったと思う。
- ☞ボランティアスタッフや、勉強会メンバーの現場参加数を上げなければならない。
- ☞射的や駄菓子の<u>販売は単価</u>が安く、<u>値段設定を十分に</u>検討する必要がある。









おわりに



■ねらい

- ☞ 車道や停車帯等の公共空間を全面的に活用した**居心地のいい滞留空間**の創出
- 受民間の空き地や駐車場等を活用した多世代の滞留・交流拠点の創出
- ☞新たな移動手段により、歩行者と親和性の高い<u>移動しやすい交通環境</u>の構築

■結 果

- ②立寄者の滞留時間やアンケート調査の満足度などから、道路空間の利活用について可能性を感じる取組みとなった。
- ☞レトロな雰囲気や過去を感じるコンテンツは、高齢者にとっても滞留するきっかけとなり、<u>『過去』は多世代を結ぶキーワード</u>として存在感を感じた。
- ☞グリスロの運行によって、竹原駅・あいふる通り・本川通り・道の駅たけはらを エリアとして捉えることが、**ウォーカブルなまちづくりの方向性**であると感じた。

■今後の展開

- ☞公共空間の利活用に加えて、<u>空き店舗の活用も連携</u>した取組とすることにより、<u>『民』の</u>
 <u>巻き込みの拡大</u>、ウォーカブルなまちづくりに向けての相乗効果
- ⇒沿道の飲食店舗事業者との連携を強化し、更に来訪者の満足度を高める取組の深化
- ☞ PDの取組を踏まえた、小さな民間まちづくり活動への展開と地域の人材発掘